

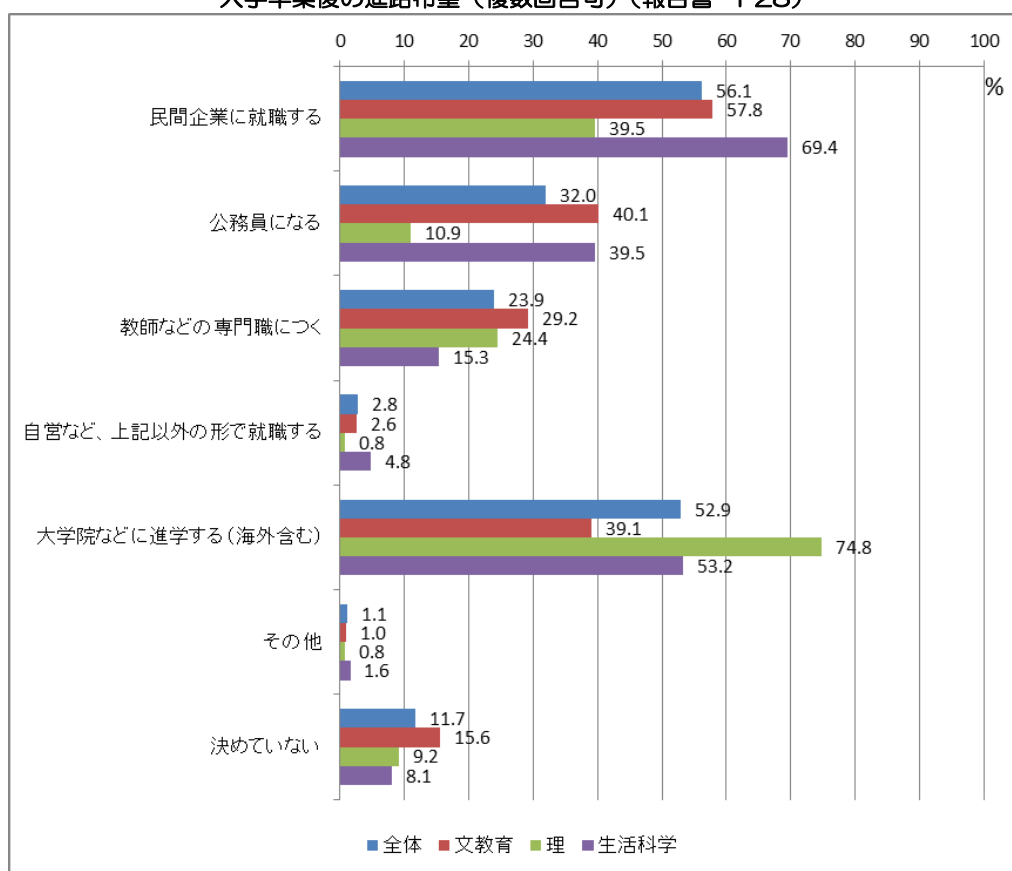
平成26年度「新入生の生活に関する調査」

第3回 「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」

1. 「民間企業に就職」「大学院などへの進学」それぞれを半数以上が希望

本学の新入生は、大学卒業後の自身の進路について、どのような希望をもっているのでしょうか。

大学卒業後の進路希望（複数回答可）（報告書 P28）



全体で見ると、「民間企業に就職する」の割合が56.1%と最も高いのですが、「大学院などに進学する(海外含む)」もそれに続いて52.9%を占めています。ただし「大学院などに進学する(海外含む)」は、理学部では7割を超えるのに対し、文教育学部では4割程度です。これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。

これらの進路に「公務員になる」が全体の32.0%で続いています。文教育学部や生活科学部ではおよそ4割を占めるのに対し、理学部では1割程度にとどまっています。

2. 卒業後に正規で雇用され、その就職先に長く勤めたい

では、本学の新入生は、大学卒業後の就職について、どのような考えをもっているのでしょうか。「卒業後の就職」「就職後の勤務・退職」「卒業後・就職後の大学院進学」といった側面からみていきましょう*。

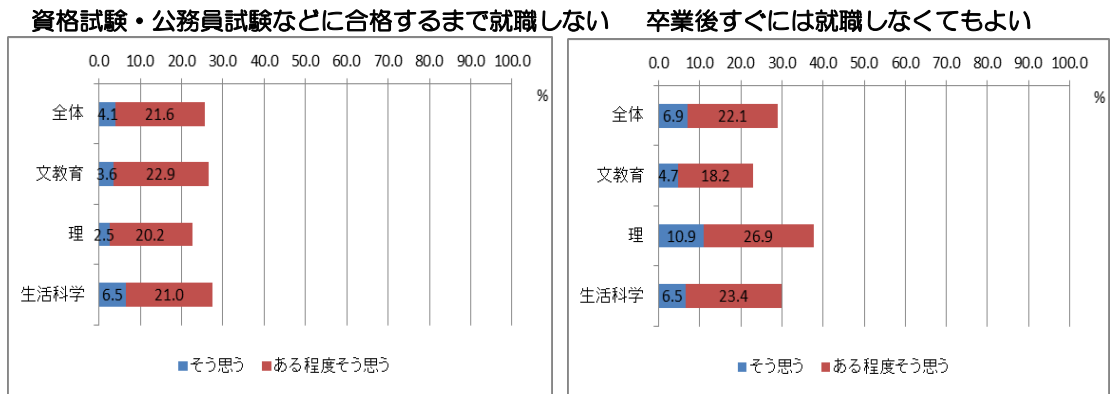
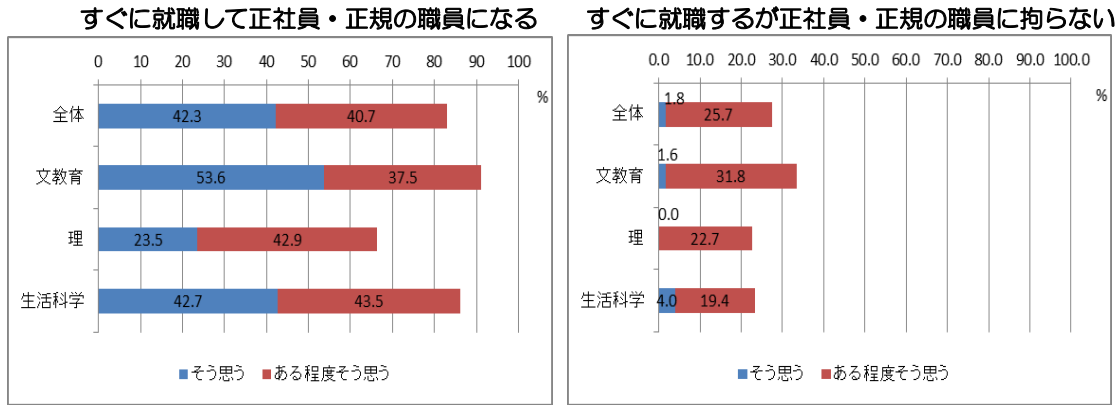
*「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示した結果を図示しています。

(1)「卒業後の就職」についての考え（報告書 P29-30）

「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」の割合が全体の8割を超える一方で、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」は全体の2〜3割にとどまっています。

ただし理学部では、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」の割合が他学部比べて低い結果も示されています。

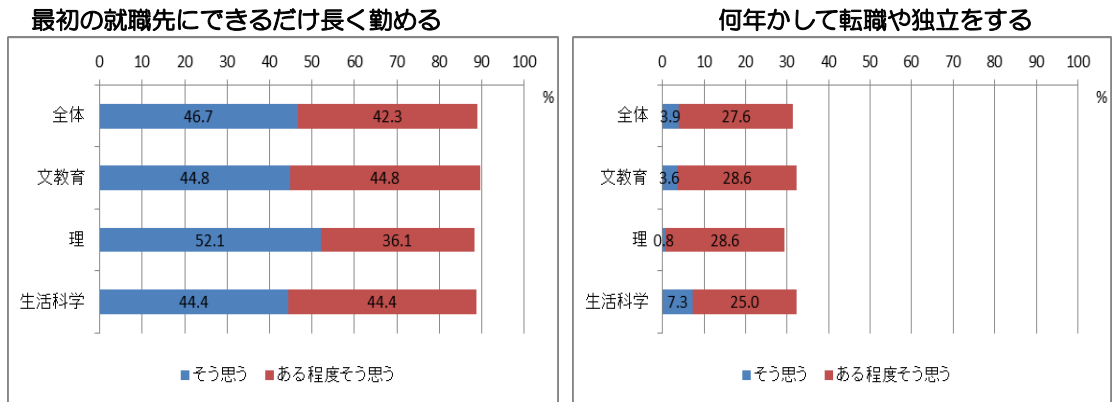
これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。



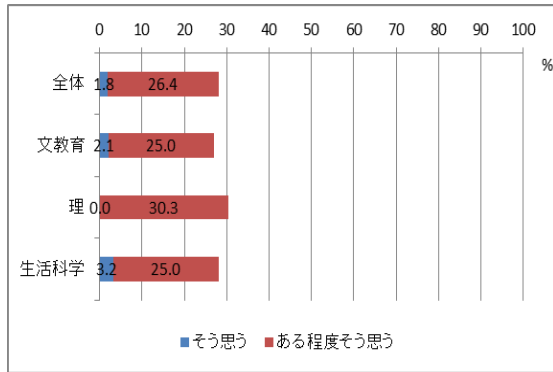
(2)「就職後の勤務・退職」についての考え（報告書 P31）

「最初の就職先にできるだけ長く勤める」の割合は、全体のおよそ9割に及んでいます。その一方で、「何年かして転職や独立をする」「結婚・出産したら仕事をやめる」は全体の3割程度にとどまっており、「そう思う」との回答はいずれも極めて少数であることも示されています。

これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。



結婚・出産したら仕事をやめる

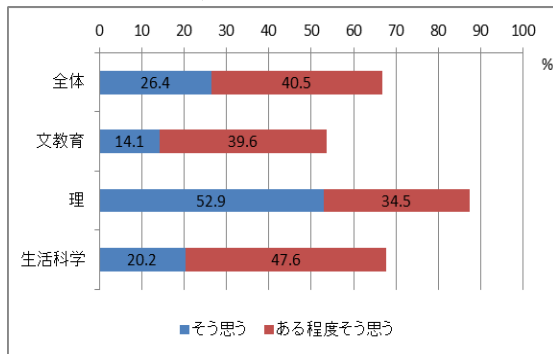


(3)「卒業後・就職後の大学院進学」についての考え (報告書 P32)

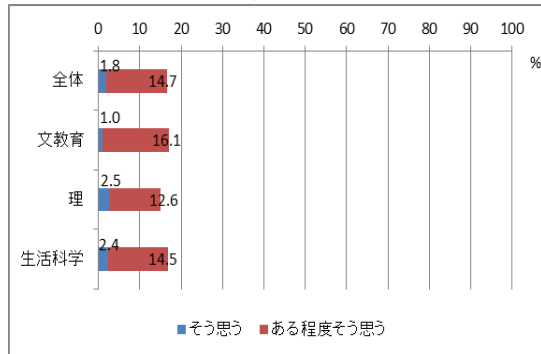
「すぐに大学院などに進学する」割合は全体のおよそ7割ですが、理学部では他学部比べて明らかに高い結果となりました。その一方で、「就職してから大学院への進学を考える」の割合には、学部による大きな差はみられません。

これらの傾向は、昨年度も同様に示されています。

すぐに大学院などに進学する



就職してから大学院への進学を考える

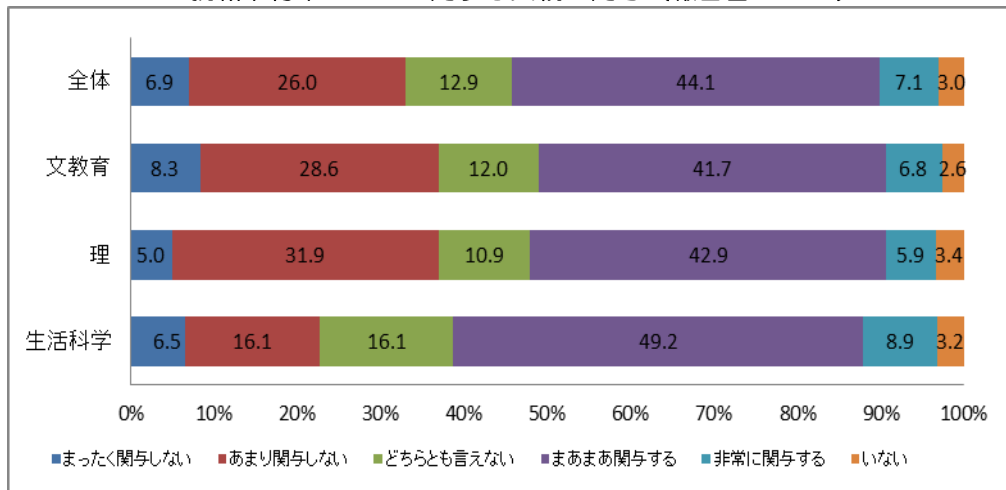


3. 半数の父親、2/3の母親が、子どもの就職や将来の進路に関与

さいごに、本学の新入生の就職や将来の進路について、両親がどの程度関与しているのかについてみていきましょう。

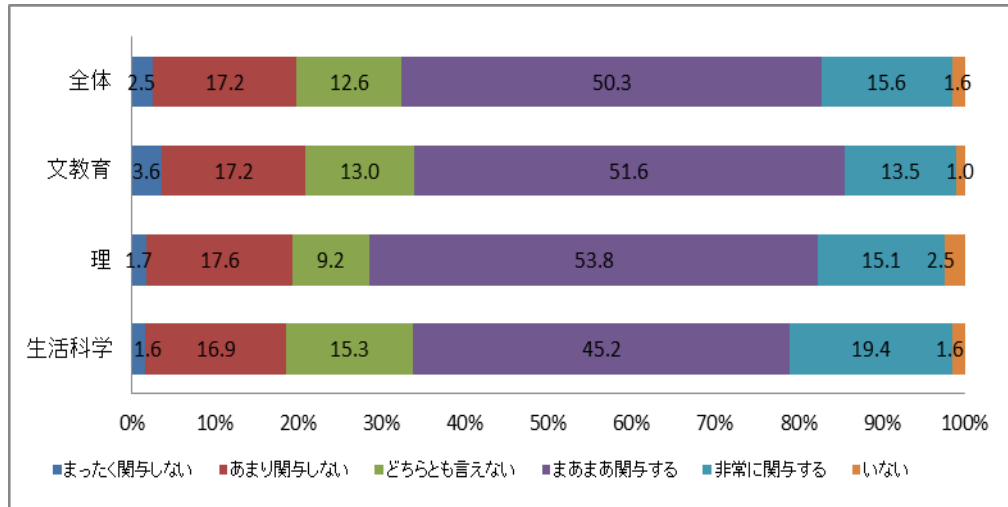
まず、父親の関与について尋ねたところ、51.2%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。昨年度と大きな違いはありませんが、昨年度は理学部での高さが目立っていたのに対し、今年度は生活科学部での高さが目立ちます。

就職や将来のことに関する父親の関与 (報告書 P33)



同様に母親の関与についても尋ねたところ、65.9%が「非常に関与する」または「まあまあ関与する」と回答しています。この結果は、昨年度と大きな違いはありません。

就職や将来のことに関する母親の関与（報告書 P33）



次回は、
**「どのような新入生と保護者が
 奨学金を認知・希望しているか」**
 について、ご報告します。



「学生・キャリア支援センター*Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、TeaPotからPDF形式でダウンロードできます。（<http://hdl.handle.net/10083/56686>）